

タマゴタケ (学名: *Amanita hemibapha*)

[テングタケ科テングタケ属]



タマゴタケは、ミズナラやブナなどの広葉樹林の地面に生えるキノコです。生えてきた直後は白い袋状になっている外皮から真っ赤なキノコの頭がのぞいた状態なので、卵のように見えます。ウグイスの卵にそっくり！その後、柄が伸びると傘が開き、キノコらしい形になります。傘の大きさは直径6cm～18cmになり、周囲に放射状の溝があります。柄が黄色でまだら模様がある点、傘が開いても外皮が残る点が特徴です。植物の根に

共生し、水や栄養分をやりとりする菌根をつくります。

只見町では、8月をピークに9月中旬まで、林の中や遊歩道の脇で見ることが出来ます。食用になるキノコですが、似たキノコに有毒のベニテングタケがあります。ベニテングタケは傘に白いイボがあり、柄が白色をしているという点で違いますが、傘が開いた状態では形がとても似ているので、採る時には細心の注意が必要です。

企画展示

水辺林の不思議な世界

期間 7月28日(日)～9月30日(月)まで

只見を特徴づける水辺林は一体どのような役割を担っているのでしょうか？その成り立ちと役割について、写真入りの解説パネルでご紹介します。水辺林の不思議な世界をのぞいてみませんか？

詳しくは、
只見町ブナセンター
までお問い合わせ
ください

※この広報紙は再生紙を使用しています



※環境にやさしい大豆油インキを使用しています



やざわ はるき
矢沢 悠樹くん(二軒在家)



さんべ かなと
三瓶 叶翔くん(只見)



やざわ しおり
矢沢 菜さん(塩沢)



(8月20日)
3歳児健診